

地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.32



今月は
藪田佳奈が
書いています



▲職人さんたちと一緒に

2号にわたって私の活動テーマ「移住」と「アート」について書いてきました。今回は活動していく中で感じた「続けること、守ることの大切さ」について書きたいと思っています。

以前に大山チャンネルの番組に出演した際に町民の方から、私たちの活動が「1発の打ち上げ花火にならないように」というメッセージをいただきました。新しい事業や取り組みを始めるにはパワーが必要です。でも、活動していく中で、本当に大切で大変なことは続けることや守っていくことだと感じました。

暮らに残る先人の知恵

大山では、集落やグループがそれぞれのレシピで、豆腐やこんにやく、ケチャップなどを手作りしています。これはその地に引き継がれてきたもので、私も伝えていきたいと思った文化の一つです。

また、11月号でも紹介しましたが、私は築100年以上の古民家に住んでいます。

その家の修繕時に、古い家に施されている先人の知恵や職人の技術にとても感動しました。昔の家は木や土などで自然のものでできているので再利用できます。私の家も、もとの土壁をこぼして再利用しました。さらに、古い家が減ると昔からの技術も同時に失われていくと聞き、私がこの家に住むということはその技術を守ることでもあると感じ、自分自身もその知恵を経験して伝えていけたらと思いました。

当たり前の自然

先日、新しく大山町に移住してきた方とお話する機会が



▲大山の美しい水

ありました。その方は「今までは水を買って飲んでいただけ、大山は水が本当に美味しくて。買わなくてもいいのが何よりも嬉しい!」と話しておられました。

「蛇口をひねれば美味しい水が飲める。きれいな水で育った美味しい野菜や海鮮が豊富にある。私も大山にやってきて、この環境が当たり前であることにとても驚きました。当たり前であればあるほど、その大切さに気づきにくく、意識した時にはもう手遅れになっていることが多々あります。」

大山周辺エリアには水源がたくさんあって、私もお客さんがきた時には水源に案内するのですが、皆さんが水の美

しさには本当に驚き、喜んでくださいます。

しかしながら、大山周辺の中でも多くの水源がある米子市淀江町に、産業廃棄物最終処分場を建設する計画があると聞きました。なぜこんなに美しい水源がある場所に建設するのでしょうか。人工物は壊れたら直せませんが、自然は一度壊れたら取り返しがつきません。

今は当たり前前に飲めている美味しい水が、もしかしたら、飲めなくなるかもしれません。美味しい野菜や海産物がとれなくなったらと考えると不安になりました。産業廃棄物最終処分場は本来に必要なか、必要だとすると、この場所が良いのか?何かできることはないのかと説明会にも参加しています。

この水を守ることは飲み水だけでなく、大山周辺の農業、漁業などの産業、そして文化も守ることなのではないかと思っています。

◆問い合わせ先

地域おこし協力隊・藪田
(080-2942-6517)